

いじめ発見のための観察ポイント（保護者用）

～ お子様に気になる言動はありませんか ～

いじめが見えにくいのは、子どもが、親に心配をかけたくない、いじめられていることが恥ずかしい、いじめを告白したためによけいにひどくなるなどと考えたりするため、事実を訴えることが少なく、必死に隠そうとすることが多いためです。しかし、いじめられている子どもたちの言動には、何かしらの変化が現れます。子どもの状態をよく観察していれば、いじめられている子どもの兆候を見つけることが可能です。日常のちょっとした変化に気付けるかどうか、発見のきっかけになります。

次の観察ポイントを参考に、子どもの日常を丁寧に見てあげてください。

- ※ サインを見落とさず、気になることがあれば、担任の先生に相談しましょう。
- ※ 早期に発見し、学校と協力して早期に対応することで、早期解決が可能です。
- ※ スクールカウンセラーや学校以外の機関にも相談することができます。

（「主ないじめ相談機関」参照）

第一段階

すこし気を付けて観察しましょう

- ☐ 「いってきます」「ただいま」の声に元気がない
- ☐ 弟、妹やペットに乱暴な態度をとる
- ☐ 親への反発が強くなる
- ☐ 食欲がなく、寝言などでうなされることがある
- ☐ 勉強に身が入っていないように見える
- ☐ 帰宅時に衣服が汚れていたり、破れていたりする
- ☐ 最近、よく物をなくす
- ☐ 学校のことを尋ねると「別に」「普通」など、具体的に答えない
- ☐ メールやブログ等を今まで以上に気にしはじめる
- ☐ 友だちから呼び出されるようになる
- ☐ 頭痛、腹痛を訴え登校をしぶるようになる
- ☐ 学校のノートや教科書を見せたがらない（教科書への落書き、破れ）
- ☐ 親の前で宿題をやらうとしない（プリントへの落書き、破れ）
- ☐ 学校行事にこないでほしいと言う
- ☐ すぐに自分の非を認め、謝るようになる（隠したいことを詮索されたくない）
- ☐ 学校からの通知、連絡帳などを見せなくなる
- ☐ ぼーっと放心状態でいることがよくある
- ☐ 何もしていない時間が多い
- ☐ 倦怠感、疲労、意欲の低下が見られる
- ☐ 無理に明るく振る舞っているように見える